

○玉名市地球温暖化対策実行計画 令和5年度進捗状況

1 温室効果ガス総排出量の比較

本市の事務事業における2023年度(令和5年度)の温室効果ガス総排出量は、基準年度となる2013年度(平成25年度)と比較して、55.2%の減となりました。

※基準年度と直近3か年の推移

年度	2013	～	2021	2022	2023
排出量(t-CO ₂)	14,003	～	6,811	9,198	6,270
目標排出量(t-CO ₂)	－	～	9,285	9,097	8,093
増減率(2013年度比)	－	～	－51.4%	－34.3%	－55.2%

2 電気・その他エネルギー別使用量の比較

電気やその他のエネルギーの使用状況は、以下のとおりです。

※基準年度との比較

項目(単位)	2013年度	2023年度	増減量	増減率
電気使用量(KWh)	18,711,939	17,063,039	△ 1,648,900	－8.8%
ガソリン使用量(ℓ)	60,364	54,070	△ 6,294	－10.4%
灯油使用量(ℓ)	267,459	134,979	△ 132,480	－49.5%
軽油使用量(ℓ)	9,275	955	△ 8,320	－89.7%
A重油使用量(ℓ)	425,201	364,822	△ 60,379	－14.2%
LPガス使用量(m ³)	30,934	13,991	△ 16,943	－54.8%

3 温室効果ガス総排出量減の主な理由

温室効果ガス総排出量が減少した主な要因は、総排出量の大部分を占める電気使用量において、温室効果ガス排出係数が大きく低下したことによるものです。また、公共施設の廃止や省エネ設備への更新、工事や休業期間等により、電気使用量が減少したことも挙げられます。

4 今後の課題等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、換気をしながらの空調使用などが継続しており、電気使用量を減らすためには、空調等の使用方法の見直しや設備機器の更新(高効率機器への変更等)が必要になると考えられます。

また、温泉施設等における重油等燃料を大量に使用する機器について、高効率の機器の導入や燃料を使用しない電気設備等への更新も検討が求められます。

さらに、公用車については、買い替え等の際にはエコカー(ハイブリッド車や低燃費、低排出ガス車等)の導入の積極的な検討を進めていきます。